

学外研修報告

2017 年度信州大学実験・実習技術研究会に参加して

共通機器部門 藤高 仁

1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるために出席した。

2. 期間・場所

期間：平成 30 年 3 月 1 日～2 日

場所：信州大学 長野キャンパス

3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 390 名以上

4. 研修内容

1 日目に専門職員制度 20 周年シンポジウムと信州大学天野良彦教授による記念講演「地域資源を活かして地方を元気にする取り組み-ソルガムプロジェクトと人材育成-」を聴講しその後ポスターセッションにて発表者との意見交換を行った。

2 日目には口頭発表を聴講し講習会開催等業務に役立つ情報の収集をおこなった。

5. まとめと感想

専門職員制度 20 周年シンポジウムでは制度が始まってからの歩みを紹介いただき今後の展望について意見交換が活発に行われた。記念講演にて天野教授にお話いただいた信州大学が展開している地域活性化へプロジェクトを複数紹介いただいた中でも印象的であったのは集落単位での緊急用発電機の設置で実験検証は大学でも行えるがその後の継続した運用につなげるために地域の住民とのコミュニケーションを大事にした話に大変感銘を受けた。ポスター発表や口頭発表の聴講をしたが各位創意工夫をこらした業務を行っていた。興味を持ったのは外部資金をうけて視覚障害者への教材を提供する活動の発表があり、全国の盲学校へ教材が送られている発表で、盲学校の教員及び生徒からのニーズを聞き教材を作成し評価を受ける一連の流れを学生がおこなうといった内容であった、その中で技術職員は教材作成のアドバイスや外部資金の調達、盲学校の教員と頻繁にコミュニケーションをとり改善点などの意見収集など事業の成功に貢献している。

これらのように誰しものが特を得るような事業や業務に携わってみたいと感じた。